

# 第五回熊本大学附属図書館特殊資料展

## 永青文庫史料による熊本城図展

### 出品目録

昭和63年10月27日～29日

熊本大学附属図書館

#### 1. 熊本城之図

整理番号 赤215, 29番

桜の季節の熊本城を坪井川の南側花畑屋敷から眺めた俯瞰図。高くそびえる大天守・小天守を中心に城内の屋敷、櫓、門等が描かれ金字で建物の名称が書き込んである。左手遠景は本妙寺。作者の赤星閑意は矢野家五代良勝の門人赤星勝栄の子で、第12代細川斎護(1804～1860)より閑意の号を賜わった。明治21年(1888)54才で没。(60.5×105.5cm)

#### 2. 熊本城紙図

整理番号 神45番45印26番

熊本城内を10区分した建物配置図。全体組合之図で各図の位置を示す。1、2および9、10は合図。北西から東へ番号をつけ最南部が9、10図となる。平面図の建物に番号をつけ、横に建物雛形を添えてある。建物の概観が正確に描かれている貴重な資料である。(88×105～131.5×110cm)

#### 3. 熊本城図

整理番号 神45番45印44番

熊本城は加藤清正(1562～1611)によって慶長6年(1601)から12年(1607)にかけて完成されたといわれているが、寛永9年(1632)の細川氏入国後も大きい改修は加えなかったため、維新までほとんど元のまゝの形で残ったといわれる。本図は坪井川に囲まれた城内の建物の配置図で、道、川、藪、堀、空堀を色別けして描いている。(121×119.5cm)

#### 4. 肥後国熊本城絵図

整理番号 8, 4, 丙74

1. 享保7年(1722)5月27日細川越中守宣紀(1676～1732)が熊本城外曲輪の堀凌えを幕府に願出たもの。新町1丁目御門外堀2ヶ所、坪井方面13ヶ所の彩色絵図を示している。
2. 文政3年(1820)12月細川越中守斎樹(1797～1826)が本丸より北の櫓(御裏五階櫓)下石垣等の修理を上図と同じく右に図示して願出たもの。(39.8×86cm・39.7×88.1cm)

#### 5. 御花畑御絵図

整理番号 8, 4, 24乙

江戸時代の藩主の邸宅。現在の熊本市花畑町一帯を占めていた。加藤清正の時代から花畑屋敷はあったといわれるが、細川氏は入国後明治維新までこの花畑屋敷を本邸とした。本図は建物の名称等から宝暦以後のものと思われる。御殿は北寄りに建てられ、南は泉水・築山である。建物は屋根(柿屋根・瓦屋根并石・萱屋根等)で色分けされている。総坪数14,765坪。(301×220.5cm)

## 6. 奉行所之図

整理番号 神45番45印17番

奉行は熊本藩では家老に次ぐ藩行政の中枢をしめる役職である。第8代藩主細川重賢（1718～1785）による宝暦の改革では特に中央政府としての奉行所の整備と奉行の権威の確立を眼目とした。奉行所は西大手櫓門より入ってすぐ南側にあった。建物は奉行所・勘定方・小物成方・郡代間など色分けしてある。なお細川氏入国前こゝには加藤平左衛門中屋敷があった。（148×162cm）

## 7. 時習館并東西榭絵図

整理番号 108, 6, 63-4

藩主細川重賢により宝暦5年（1755）熊本城内二の丸に創設された藩校時習館（文芸教授所）と東榭・西榭（武芸演習所）の建物配置図。敷地は東西約63間、南北約43間である。（92×132cm）

## 8. 熊本図

整理番号 神45番45印24番

坪井川を内堀に、白川・井芹川を外堀に利用した熊本城を中心に、北は立田山・泰勝寺、東は久本村・新村、南は八王寺村・春日、西は本妙寺・島崎谷をふくむ熊本府の絵図。町名・寺名・重臣の屋敷名が書込まれ、水・草木・寺・道等色分けされている。（79×78cm）

## 9. 熊本所分絵図

整理番号 赤215, 5番

熊本の曲輪内を11に区分した絵図、他に熊本総絵図と飽田詫摩之内屋敷絵図が附いている。名絵図には家臣の居室を知行取・中小姓・切米取・下屋敷等色分けし、坪数が記入されている。ここでは熊本惣絵図・二の丸・京町・内坪井・手取の絵図を展示した。（117.5×134.5～93×68.7cm）

## 10. 加藤忠広御家中人数附

整理番号 4, 5, 66-2

元和8年（1622）の加藤家家臣の名前・知行高等を記録したもの。肥後（忠広）分総合計708,734石4斗1升3合2勺。加藤平左衛門は慶長16年（1611）知行万万奉行であるが、知行高2,639石2斗、平左衛門与力9名合491石2斗3升、扶持方191人扶持、騎馬9人、90人扶持鉄砲の者30人とある。時習館本（30.4×21.7cm）

## 11. 加藤肥後守忠広御改易覚

整理番号 4, 5, 66-3

加藤忠広（1601～1653）が品川に於て幕府に提出した「条々」、「清正公御子孫聞書」、「肥後国誌」、「寛永9年7月22日熊本城御受取相済御持場定」等諸種の記録を集めたもの。嘉永5年佐田右平の編と思われ、細川家譜等による関係資料の朱註がある。上使熊本城受取の時、加藤平左衛門屋敷は石川主殿頭担当と記されている。時習館本。（25.5×19cm）

## 12. 細川忠興書状

整理番号 107,40, 天印16番, 2

寛永9年6月14日細川忠利（1586～1641）宛。将軍家光が連日年寄衆を集めて談合しているが肥後についてであろうこと、加藤忠広書状に年寄衆の書状を添えて使者が熊本留守居加藤平左衛門の処へ向うこと、浅野か細川が肥後に国替になるとの噂があることなどを書き送ったもの。これによって加藤平左衛門が国替直前、熊本留守居役にあったことが知れる。（16.1×42cm 2枚）

## 13. 平左衛門尉元屋敷家御材木覚帳

整理番号 神雑1, 133

加藤時代2600石取の重臣で加藤忠広改易の際熊本留守居役であった加藤平左衛門の屋敷、広間、書院、居間等家数大小6と西竹の丸台所の材木およびその取壊し経費等を書いたもの。材木の寸法が詳細に記録されており、当時の武家屋敷の建物の状況がよくわかる貴重な資料である。寛永14年（1637）3月、作事小奉行、大工の連名で作事奉行宛に出されたもの。熊本県立図書館所蔵の「熊本屋敷割下絵図」によれば平左衛門屋敷は天守と宇土櫓の間、中屋敷は奉行所のところであった。（27×20cm）

## 14. 平左衛門尉元屋敷家御材木目録之事

整理番号 神雑1, 43, 2

前項の平左衛門元屋敷家数大小6、并に西竹の御丸御台所の材木の総目録である。（30.5×長巻）

## 15. 古城考

整理番号 3, 2, 4

熊本藩内にある古城の来歴および城主について書いたもの。球磨・天草各郡および豊後国領までを含む275ヶ所。森本一瑞輯、横田氏敦校正。奥書によると天明8年(1788)12月中旬献納の草書。熊本城については、慶長元年(1596)鋏始、同7年完成としているが、慶長6年(1597)8月中旬鋏始説のあることも紹介している。「肥後文献叢書」第1巻所収。(25.6×19cm)

## 16. 鈴録(けんろく)

整理番号 2, 7, 6

荻生徂来著。徂来(1666~1728)は江戸時代中期の儒学者として有名であるが、本書は享保12年(1727)に書かれた兵制・行軍・陣法・戦略・城制・守法・攻法などを論じた一大兵書である。城制の選地の項で「熊本ノ城ハ加藤清正繩張ナリ云々」、同じく城地の項では清正の石垣について「清正ノ築ケルハ大坂・尾州・肥後ノ熊本也云々」とある。今日天下の三名城といわれるものである。(25.8×19.1cm)

## 17. 熊本城廻目録

整理番号 神45番23印又11番

本丸天守を中心に、二の丸・三の丸・各門・矢倉の位置(方角)大きさ、距離等を記したもの。本丸東西131間、南北153間、本丸石垣総曲輪684間、熊本総曲輪2里13町とある。「部分御旧記城郭部」、「御自分御普請」等にも収録されている。(34.6×長巻)

## 18. 細川忠興書状

整理番号 107,40, 12印33番

細川家第2代細川忠興(1563~1645)はその子細川忠利の肥後入国後は八代城に住んだ。本資料は豊前時代の居城中津から八代へ向う途中の豊後鶴崎から細川忠利熊本入城を祝って送った書状である。忠興・忠利父子間の往復書翰は数千通残されており、「大日本近世史料細川家史料」(東京大学史料編纂所編 東京大学出版会発行)として刊行中である。(32×45cm)

## 19. 藩譜採要

整理番号 4, 3, 5

正慶元年(1332)細川頼有誕生から慶安3年(1650)細川光尚逝去、細川綱利相統迄の細川家歴代当主の事蹟を編年的に記録したもの。天保3年(1832)財津三左衛門永晟編。時習館本。寛永9年(1632)12月9日熊本初代藩主として入国した細川忠利が熊本城に初めて入った時の有様が書かれている。(24×16.8cm)

## 20. 御入国宿割之覚

整理番号 1, 5, 4

寛永9年(1632)12月藩主とともに肥後に入国した家臣の宿泊割付の記録。呉服町・米屋町などのいわゆる古町地区、塩屋町・蔚山町等の新町地区、宮内、手取、坪井、京町等の寺院、商家に分宿した。熊本府中の町々が殆んど網羅され当時の城下町の有様を窺うことの出来る資料である。(26×18.2cm)

## 21. 熊本城御普請被得御意候御覚書之留

整理番号 神45番45印21番

熊本城の堀・矢倉・石垣等の破損修理および二の丸と三の丸の間の水落しの溝の石垣修理許可願の控。寛永11年(1634)3月17日絵図を添えて江戸幕府に提出した。文中の肥後は加藤肥後守清正・忠広父子時代のことをさしたものである。(37.5×51.2cm)

## 22. 御自分御普請

整理番号 文下45

元和9年(1632)から寛永までの細川家自身の普請について記したもの。肥後入国以前は豊前小倉城について、入国後は熊本城および八代城の修理についての記録。(一部延宝4年(1676)を含む)(30×21.5cm)

## 23. 部分御旧記 城郭部

整理番号 10, 7, 1

内容は1. 熊本御城廻目録之事 1. 公義御達ニ付而古城破却之事 1. 御城廻石垣等破損之事 1. 御城廻御普請之事 1. 八代御城御普請之事で小倉、中津、熊本、八代各城の普請の記録。元和元年(1615)から延宝4年(1676)まで。(26.3×19.5cm)

## 24. 肥後国隈本城廻り普請仕度所目録

整理番号 神45番45印21番

寛永9年(1632)12月9日熊本城主となった細川忠利(1586~1641)は、翌寛永10年2月19日には本丸修理を行うため花畑屋敷に移り、8月5日、(1)水道・堀・土手等11ヶ所988間、(2)石垣25ヶ所1,503坪半、(3)堀4ヶ所113間、新矢倉数27、新門数13等を熊本城廻りの普請として江戸幕府に申し出た。(31.5×長巻)

## 25. 御城分間・御本丸所々御矢藏并石垣共高サ覚

整理番号 神45番45印58番

天守・小天守・本丸裏五階矢藏・西ノ丸五階矢藏(宇土櫓)等々城内の各矢藏の高さ、土台から瓦棟迄の高さ、石垣の高さを記したもの、末尾に「地形之高サ并惣間ノ覚」が附いている。寛文6年(1666)2月12日、作事所大工棟梁別井三郎兵衛から鉄炮頭 作事奉行元田八右衛門・興津才右衛門宛出されたもの。(32×169cm)

## 26. 覚

整理番号 神雑1, 245, 1

熊本城ぎわより川尻までの川幅がせまいので高瀬舟が通行しやすいように川幅を拡張したいこと、又坪井川の砂を町人の用のために採取させたいと細川忠利より寛永17年(1640)5月28日付で幕府に申請したもの。熊本城ぎわを流れる川の名称は書かれず、坪井川が熊本城三の丸の内を流れる小川と書かれている。(33.5×48cm)

## 27. 老中連署状

整理番号 神雑1, 223

前項の申請に対して寛永17年(1640)6月14日江戸幕府老中より出された許可状。(40.5×56cm)

## 28. 熊本洪水二付而城廻破損所付之覚

整理番号 神45番45印21番

寛永21年(1644)6月25日大雨洪水により熊本城石垣・堀・櫓等が破損した。このため7月10日付で藩主細川肥後守光尚(1619~1649)が、修理を幕府に願出たものである。(37×102.5cm)

## 29. 老中連署状

整理番号 神雑1, 224

前項の申請に対し江戸幕府は同年8月23日付で熊本城の石垣・土手・櫓・堀等の破損の修理、三の丸虎口櫓脇の川岸崩についての新規土留石垣土手築、水抜1ヶ所新規工事を許可した。(40.5×51.5cm)

## 30. 御天守密書

整理番号 神45番45印又10番

熊本城内本丸殿舎の内、大広間、猿索の間、耕作の間など各部屋の畳数、襖絵・杉戸の画題および絵師について記録したもの。附紙によれば加藤清正の時狩野源四郎、狩野外記、其外京絵師11人罷下り云々とありその後は矢野三郎兵衛以後矢野雪斐までの名前が記録されている。(15.5×21.5cm)

## 31. 御作事所諸棟梁御手職人迄先祖付

整理番号 12, 10, 105~106

熊本藩の普請作事所管轄の大工(大棟梁・小棟梁・平工)、左官、張付師、屋根葺、畳差等の先祖附。寛政9年(1797)作成。大工大棟梁の横山家の先祖附では初代の横山作兵衛が花畑屋敷の作事を担当したことが記されている。(26.7×19.5cm)

## 32. 茶・鷹・馬先祖帳

整理番号 南側東柵59番

細川藩の茶道6家、鷹方3家、馬方15家の先祖附(歴代当主の事蹟を記したもの)。茶道の小堀家の項には、初代小堀長左衛門が花畑屋敷の御庭を担当したことなどが記されている。(29.7×22cm)